



4月からVIEW next編集部に入りました齋藤輝之です。これまで全国の高校や大学を担当してきました。先生方から学んだことに感謝し、本誌の製作を通じて恩返しできるように精進します。

今号の特集の取材で、静岡県の富士市立高校を訪れました。生徒がつくった空間で、地域の未就園児が元気に遊んでいました。「子どもたちが楽しめる遊びを考えるのは面白いし、この場で保護者同士が交流する姿を見るのもうれしいです」と、生徒はニコニコ顔で話してくれました。学校と地域のつながりを生徒が企画・運営し、地域の方々をも結びつけていく。素敵でした。グラウンドの別の一角では、保育園児や幼稚園児が、生徒からサッカーのシュートを教わっていました。キャーキャー盛り上がり、どの子も楽しそう。五月晴れの中、富士山が見守るグラウンドの温かい光景でした。(齋藤)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEアカウントを友だち登録していただければ、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、『VIEW next ONLINE』の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2023年8月号

8月21日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です。

Reader's VIEW

先生方からのご意見を
紹介します

2023年4月号へのご意見

悩んでもよいという安堵感を得られた

4月号の特集に掲載された岩手県立遠野高校と長崎県・私立純心中学校・純心女子高校の記事には、「生徒の中には悔いも残った」や「試みは失敗した」といった記述があり、これまでの「うまくいった」実践事例とは異なる読後感があった。純心中学校・純心女子高校の松尾まりこ先生が、生徒の申し出を断ったことについて、「もしも、あの時私が……」と、今も考えていることにも共感した。誰もが悩んでいることが分かり、自分も悩んでよいのだという気持ちになれた。

東京都立北園高校 鈴木公美

順風満帆とは言えない実践を公表した姿勢に、 勇気づけられた

4月号の特集で紹介された長崎県・私立純心中学校・純心女子高校の実践が非常によかった。自分たちが提案した授業改善が周囲に押し戻されたまさかの頓挫の先に、まだ学びがあると気づいた生徒たちの素晴らしさ。必要以上の介入を避けた教師。順風満帆とは言えない実践を公表した学校。それを記事にまとめた編集部。どれも読み手を勇気づけるものであった。

北海道・私立北見藤高校 佐々木 淳

「対話型論証モデル」の活用へ向けて、全校で共有

探究学習の指導に不安を抱き、指導方針が定まらない学校や先生方がまだ多いと思われる中、4月号の特集の「本特集テーマのnext」で紹介された、大阪府・私立高槻中学校・高校が実践する「対話型論証モデル」の有効性を感じた。初めは、京都大学の松下佳代教授が提唱した同モデルに沿う形であったとしても、生徒は探究のサイクルを回すに連れて、同モデルが示す考え方を理解できるようになる、という松下教授の発言に納得した。本校でも、学年全体、学校全体で同モデルを実践できるよう、今回の情報を共有したい。

東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

「尊敬できる人」として、生徒に紹介したい

4月号の「未来を描く! 創る! イノベティブな生徒たち」の千葉県・私立渋谷教育学園幕張中学校高校の立崎乃衣さんの記事は、生徒たちにぜひ読んでほしいと思った。「こんなにすごい高校生がいる」という文脈ではなく、私自身が尊敬できる人として紹介したい。その偉業を、目の前の生徒と同じ高校3年生が行ったことに、勇気もらった。

静岡県立静岡東高校 山梨達也

自校でも取り入れたい指導が多数あった

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された茨城県・私立東洋大学附属牛久中学校・高校の本保泰良先生の「歴史総合」の実践は、大変役立った。勤務校でも、「歴史総合」の授業で「主体的・対話的で深い学び」をどのようにして実現するか、試行錯誤している。制限時間を意識させる、模範解答をあえて示さないなど、自校でも取り入れたいと思える部分が多くあった。

埼玉県立蓮田松嶺高校 小林昭宏